

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	平野区
学 校 名	瓜破小学校
学校長名	谷本 隆

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・瓜破小学校では、第6学年 52名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数・理科ともに平均正答率で全国を下回った。国語科は6.8pt、算数科は7pt、理科は5.1pt下回る結果となった。領域別でも、国語科では「資料に書かれていることを理由にしてまとめて書く」で差が大きく14.6pt低かった。算数科では「測定」で10.6pt「変化と関係」では11.3pt下回った。理科では「生命」の領域で10.6pt下回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕対全国比でみて0.90pt（昨年度：0.77pt）だった。特に「言葉の特徴や使い方の関係に関する事項」では、漢字を正しく書く等、基礎的な部分で課題が見られた。また、記述式の問題に関しては、全国と-14.6ptと大きな差もあり、無回答も多い。文章と図表などを基に理由を結び付け書くことに対して苦手意識もあり、課題が残った。

〔算数〕対全国比でみて0.88pt（昨年度：0.79pt）であった。大きく差が開いたのは「測定」と「変化の関係」であった。特に算数においては正答数の高い区分Ⅰの割合が全国より-13.8で、区分Ⅲの割合が+14.9と多かった。正答数を上げていくことが今後の課題と言える。

〔理科〕B区分の「地球」を柱とする領域で全国で-10.6%と大きく差がついた。しかし、国語・算数と比べると正答率は一番全国平均に近く、アンケートでも「理科の勉強は好きですか」で肯定的回答が82.7%を占めている。

学びサポーターを活用した授業への入り込みや、放課後学習等、学力向上に向けた取り組みを続けている。特に、算数は研究教科として取り組んでいることもあり、少しずつ全国差が縮まりつつある。

質問調査より

「35. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」（80.8）と全国平均には-4.1ではあるものの、対話的な学びの充実を目指して研究に取り組んできていることで、児童の意識も向上しつつある。また、「9. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目でも以前から意識向上を目指している。経年的に上昇はしてきていたが、今年度は肯定的な回答が100%になり全国平均を上回った。日頃の児童の様子からも、生活面においても他者に対して認め合う心が育ってきている。

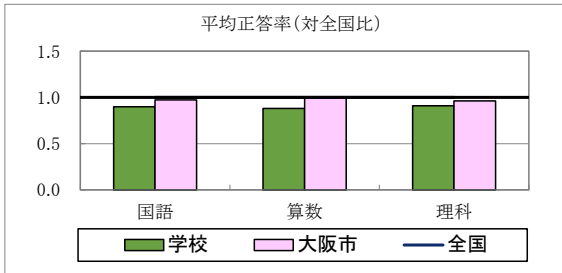
今後の取組(アクションプラン)

児童は、授業中の私語が少なく落ち着いてきている。また、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができるようになってきている。さらに教職員も授業研究やメンター研修等を積極的に取り入れ、授業改善に取り組んでいる。今後も学びサポーター、学びサポーターなど、大阪市の様々な施策を生かし、授業の充実や放課後学習に取り組みながら、基礎基本を中心とした児童の学力向上に取り組む。その上で、保護者、地域、学校が協力して、学校グランドデザインに示しているように児童にとって「学校が安心し、心満たされる居場所」になることを目指す。

【 全体の概要 】

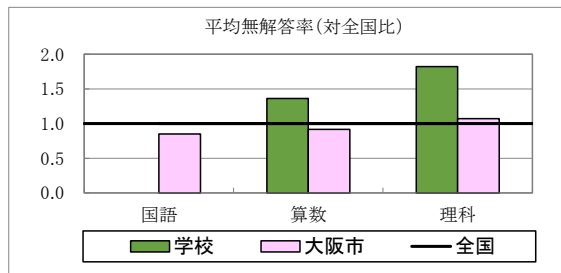
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	60	51	52
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	7.7	4.9	5.1
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



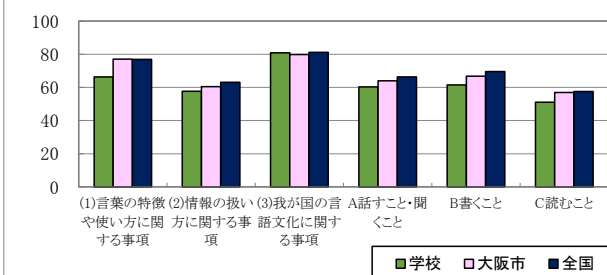
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	66.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	57.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	80.8	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	60.3	64.0	66.3
B 書くこと	3	61.5	66.7	69.5
C 読むこと	4	51.0	56.9	57.5

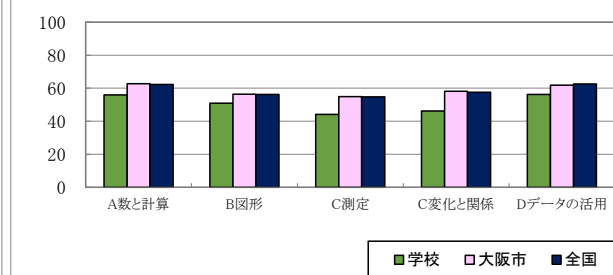
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	56.0	62.7	62.3
B 図形	4	51.0	56.4	56.2
C 測定	2	44.2	54.9	54.8
C 変化と関係	3	46.2	58.2	57.5
D データの活用	5	56.2	61.9	62.6

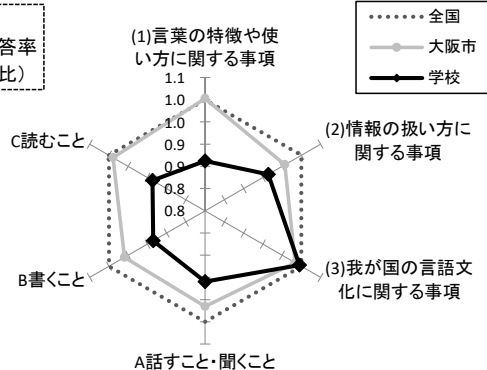
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



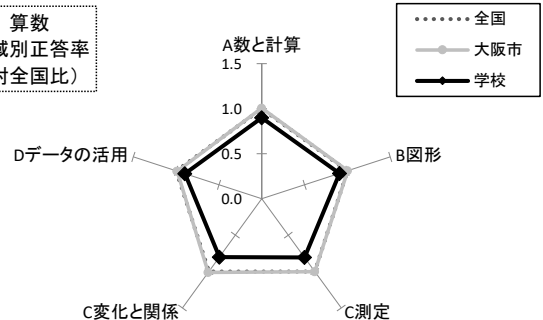
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

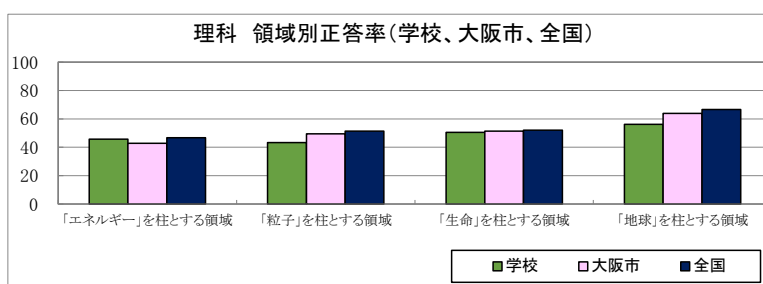


算数
領域別正答率
(対全国比)

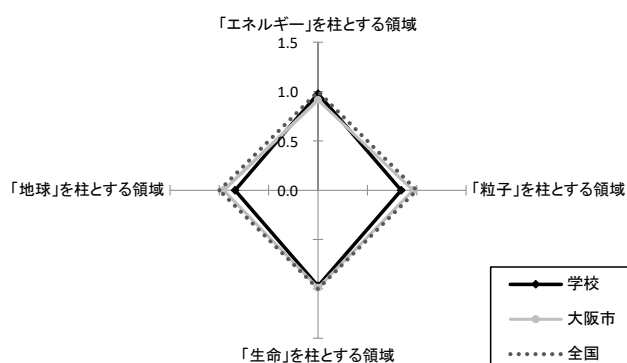


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	45.7	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	43.3	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	50.5	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	56.1	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

1

2

3

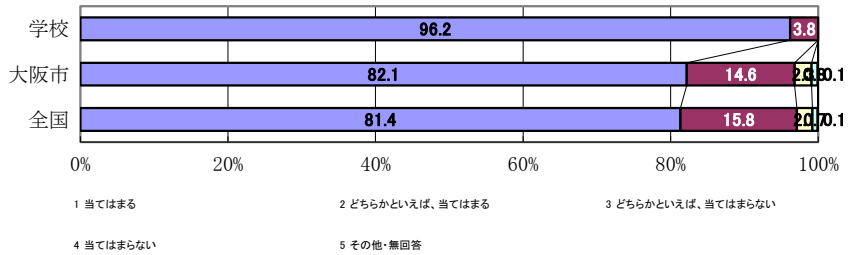
4

5

6

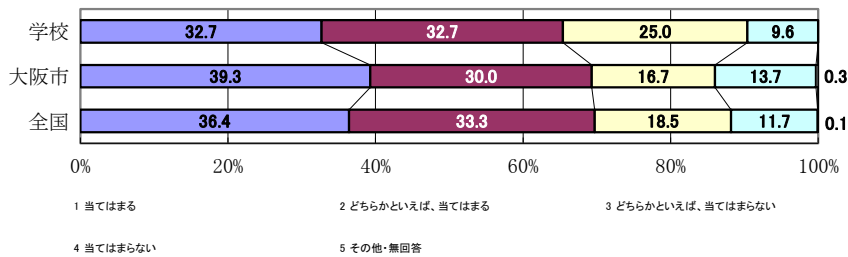
7

8



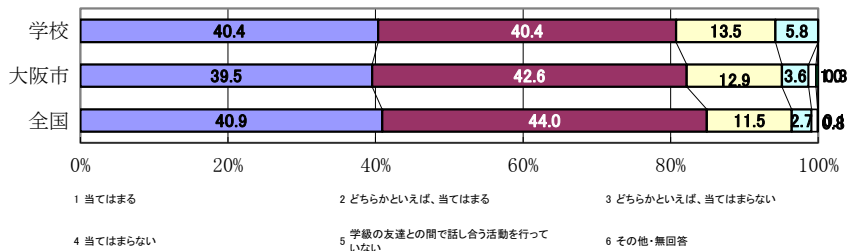
24

読書は好きですか



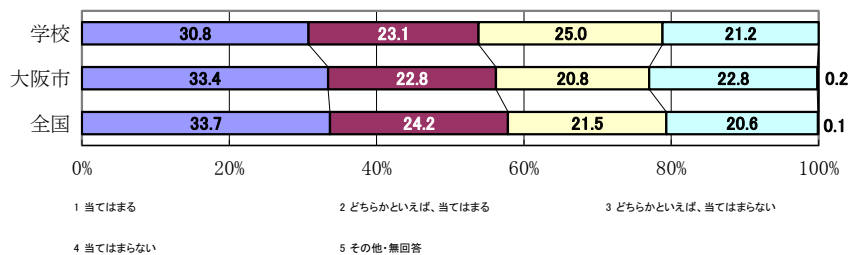
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



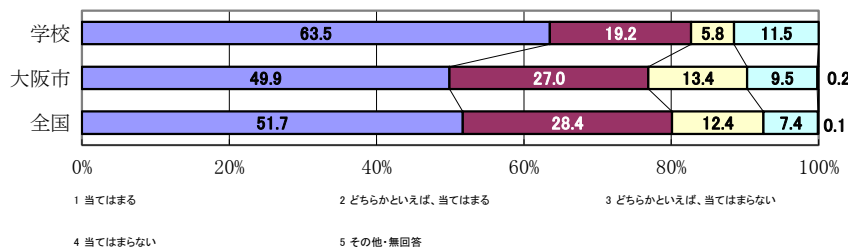
53

算数の勉強は好きですか



61

理科の勉強は好きですか



学校質問より

質問番号

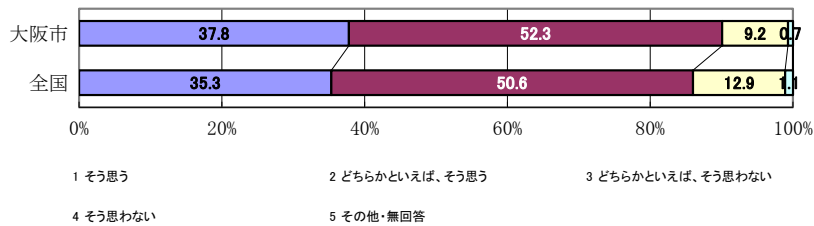
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

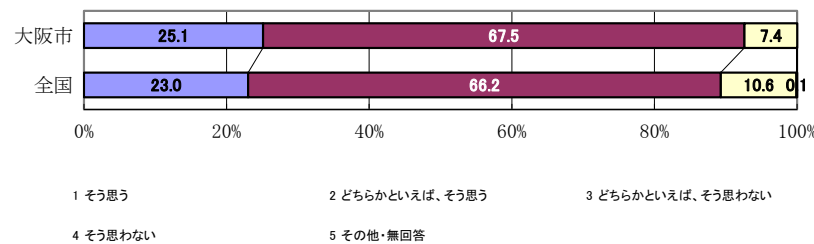
学校 「そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか

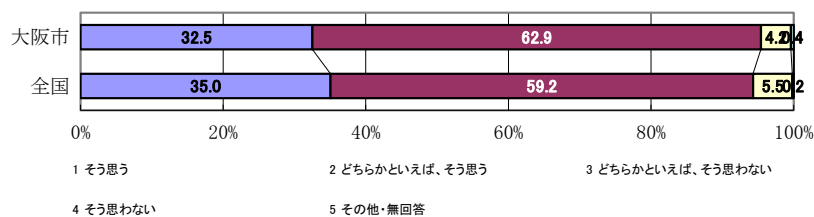
学校 「そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

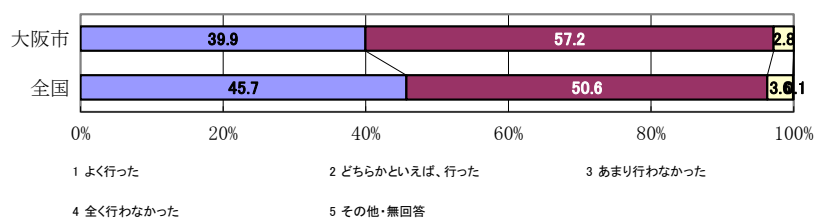
学校 「そう思う」を選択



47

調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか

学校 「よく行った」を選択



66

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校 「毎日持ち帰って、毎日利用させている」を選択

